

日蓮大聖人御書全集

いんとくようほうごしよ

陰徳陽報御書

新版  
1612  
）  
1613

いんとくようほうごしよ

# 陰徳陽報御書

こうあん ねん がつ にち さい しじようきんご

弘安 2 年 ('79) 4 月 23 日 58 歳 四条金吾

ひと ふこう 恐 者 そうろう 殿

なによりも人には不孝がおそろしきことに候ぞ。との

兄 弟

のあに・おとは、われと法華経のかたきになりて、との

離 者 身 咎

をはなれぬれば、かれこそ不孝のもの。とのみにはとがな

女 類

し。おうなるいどもこそ、とのはぐくみ給わずば、一定

ふこう たま 覚 そうろう しよりよう 広

不孝にならせ給わんずらんとおぼえ候。所領もひろくな

そうら わ 領 くだ いたしん 過

りて候わば、我がりようへも下しなんどして、一身すぐる

育 たま そうら かこ ふ ぼさだ

ほどはぐくませ給え。さだにも候わば、過去の父母定めて

守 とも

にちれん

祈 誓

叶 そうろう

まぼり給うべし。日蓮がきせいも、いよいよかない候べ

悪

聞

し。いかにわるくとも、きかぬようにておわすべし。

見 そうろう

もう

振

舞

とも

このことをみ候に、申すようにだにもふれませ給う

しよりよう

重

ひと 覚

出

ならば、なおなおも所領もかさなり、人おぼえもいできた

そうろう

そうろう

前

々 もう

そうら

り候べしとおぼえ候。さきざき申し候いしように、

いんとく

ようほう

もう

みなひと

しゆ

訴

しゆ

「陰徳あれば陽報あり」と申して、皆人は主にうったえ、主

思

和 殿

しようにき

こころ

しゆ

もいかなぞおぼせしかども、わどのの正直の心に主の

ごしよう

助

こころ

強

盛

後生をたすけたてまつらんとおもう心ごうじょうにして、

数 年 過

利 生

与

とも

すねんをすぐれば、かかるりしようにもあずからせ給うぞ

かし。これは物のものはしなり、大果報はまた来るきたべしとおぼし思めせ。

また、この法門ほうもんの一門いちもん、いかなる本意ほんいなきことありとも、

見聞けんもん言ごんみずきかずいわずしてむつばせ給え。大人おとなにいのりなしまい

らせ候そうろうべし。上かみに申もうすことは私わたくしのことにはあらず。外典げてん

三千さんぜん・内典ないてん五千ごせんの肝心かんじんの心こころをぬきてかきて候そうろう。あなかし

こ、あなかしこ。恐々きょうきょう謹言きんげん。

卯月うづき二十三日にじゅうさんにち

日蓮にちれん 花押かおう

御返事ごへんじ